

FUNAKATA GAKUEN



さざなみ

学園だより



東京都社会福祉事業団

第
49
号

発行 東京都船形学園

平成29年12月15日発行



バイキング大会

管理係長 冲山 真一

11月11日の夕食時間帯に、学園の全児童、全職員が、体育館に集まって、恒例、年1回のバイキング大会が開催されました。もともと、このバイキング大会は、児童が日頃から省エネルギー活動に協力してくれていることへの感謝の意味を込めて、職員が企画、準備し、実施していたものです。お寿司、飲物、デザート（当日は「ポッキーの日」でしたが、パフェのトッピングにポッキーもありました）、サラダ、お肉、ラーメンの各コーナーがあり、どのコーナーも大人気でした。ラーメンに何回も並ぶ児童、デザートのカッキーを迷いながら選んでいる児童、全員が好きなものをお腹いっぱい食べることができました。ラーメンコーナーは、中里ワークホームに出店の協力をお願いしました。日頃からボランティアに参加してもらっている三浦企業グループの方も児童と同じテーブルで、楽しいひと時を過ごすことができました。「また、来年も参加したい。」とみんなが思いながら、ごちそうさまをしました。

「ほう・れん・そう」

園長 山本 国男



祭礼の際や夏休み期間中の行事など、船形学園の児童たちに格別のご配慮をいただき、この場をお借りいたしましたして御礼申し上げます。

夏から初秋にかけて、当船形学園に新たな児童が入ってきて、賑やかになってきました。小学校、中学校に、皆様をはじめ多くの方々の支えで、児童たちは学校に行くことができて、大変感謝しております。

これから年の瀬を迎え、児童たちも巣立つ者、新たなステップに進む者等、様々な準備に取り掛かる時期でもあります。皆様には、今後も変わらぬご支援をいただきますようお願い致します。

さて話は変わりました、この

4月に着任して2度目の「さざなみ」ではありますが、自分の仕事で気になっている「ほう・れん・そう」（報・連・相）という言葉をとってあげてみようと思います。

ビジネスの世界では、「報告」「連絡」「相談」を分かりやすくホウレン草と掛けた略語として知られています。会社勤めなどをしていると、研修等で一度は耳にしたという人は多いのではないかと思います。聞いていると、誤った認識をしている人が多いように思い、今回取り上げてみました。

「上司へのほう・れん・そうを行う」とか、「ほう・れん・そうを行うよう指導する」というように「上司への部下からの自発的な情報伝達」に使われている方も多いと思われます。

そもそも、この「ほう・れん・そう」は、旧山種証券の会長、

山崎富治氏が始めたとされています。著書は、既に絶版になっているので、今学ぶことができないのが関連書籍のみとなっていますが、それらをみる限り「ほう・れん・そう」というものは、本来は「報告」は、上司への報告、特に悪い情報や報告をいい、「連絡」は上司から部下または、関係者への情報提供など、「相談」は横のつながりを示しているとされています。つまり、上司や部下含む組織全体で、風通しの良い職場環境をつくる手段としているものであり、決して部下への努力目標やマナーを問うているものではありません。いつの間にか、部下から上司への流れが強調され、上司の側が都合のいいように変質をしてしまったものです。

今回、あえてこの「ほう・れん・そう」を取り上げたのは、単純に言葉の違和感からだけではありません。組織も長年見直しをしないと風通しが悪くなる可能性があります。自信のない上司が部下を押さえつけるよう指導をしていたり、よくない情報を上司の叱責を恐れ隠蔽してしまふ、自分の優位性を確保するために、自分しか知らない情報を抱え込んでしまふ等、リスクが増えるばかりか取り返しのつかないことにもなりかねません。

だからこそ、「ほう・れん・そう」が正しく行われているかということは、組織が健全に運営されているかという指標にもなってくるのですが、実際のところは難しいことも多いと感じています。今回は自省の意味を込め取り上げたとともに、皆様にも風通しのよい環境とはなにかを考えるきっかけになればと思います。

実は最近、この「ほう・れん・そう」はもう古いと言われている、もう採用しないといった企業も出てきています。耳に心地よかったり、キャッチーだったり、安易なものに飛びつかずによく考えて・・・ということなんですよね。

第38弾「夢」リレー

千葉県立安房特別支援学校
館山聾分校 教頭

落合 修

県立安房特別支援学校館山聾分校（以下、分校）に赴任して七か月が過ぎました。分校には、幼稚部に十名の幼児と、高等部普通科職業コース（以下、職業コース）に二十二名の生徒が通っています。朝登校すると、職業コースの生徒はその場で立ち止まり礼儀正しく、「おはようございます」と、挨拶をしています。なぜ、職業コースの生徒たちはこんなにも素晴

らしい挨拶ができるのだろうか？なぜ、こんなに一生懸命に頑張れるのだろうか？こんな想いをいつもいただきながら、生徒たちを見ています。それはきつと子どもたちは、毎日夢を抱きながら一生懸命登校しているからではないでしょうか。

教室にはこんな言葉が、掲示されています。大きな文字で「一年生、「夢」全力投球。三年生、「夢の達成へ」ー一致団結ラストスパート！」。そしてやや小さな文字で、夢の達成に必要なこと。学ぶ意欲、働く意欲がある時間・約束を守る好印象な挨拶ができる失敗した時に謝罪相談ができる注意を前向きに受けとめられる無理や我慢ができる生活習慣を安定させる

弱音を吐かない

ちなみに二年生は、「報告・連絡・相談」ー楽しく前向きに、一歩一歩道を極めよー

これらを日頃から意識していれば、夢の達成に近づけるでしょう。夢を達成するには小さな一歩からだと思います。そして書き出すことが大切。「夢ノート」というのを聞いたことがあります。

①まず、「夢をもつ」

これがないと始まらない

②「夢をノートに書き出す」

大きな夢、小さな夢、何でもいい、とにかく書いてみる

③「夢の達成のために、何をいつまでにやるか」

しっかり計画をたてる

④「やってみて、何度も振り返る」

夢に少しずつ近づく

最後に、安房特別支援学校館山聾学校高等部職業コースの一期生が作詞した「私たちの未来」を夢へのメッセージとして贈ります。

「私たちの未来」

教室に差し込む 朝の太陽
私たちの未来を照らすように
窓から見える鏡ヶ浦

私たちの希望を映してる
私たちの努力と無限の力で
はてしない夢にいつかつながる
いつもの仲間がいる心の絆
友情を高めよう

あの富士のように

永遠に広がる波のように

ともに歩き続けようこの道を

吹く風は強いけれど

私たちは負けない

学んだ力を追い風にして

背中にうけて

吹く風は向かい風

私たちは負けない

夢をつかむその日まで

歩いてゆく

Be Ambitious Ahー



子育て福祉員になって

子育て福祉員

武田 美和



船形学園で働かせてもらい、1年半が経ちました。子育て福祉員は事業団の児童養護施設では心理職とほぼ同じように働いている方が多いです。現在、私も先輩職員の方にアドバイスをしてもらいながら、子ども達の個別の面接や各室にお邪魔して一緒に食事をしたり、行事に参加したりしています。入職した当初、児童養護施設についてほとんどわからない状態でしたが、まずは船形学園がどのような場所であるか理解できるように、子ども達が生活している場で過ごす時間をたくさんもらいました。子ども達が信頼している職員の方が一緒にいることもあり、初めて接する私のことも受け入れてくれる子が多かった

です。子ども達と遊んだり、ご飯を食べたりする時間は楽しく、とても貴重な時間だと感じています。

自立を目指す子ども達にとって、私は役に立てる存在なのか、見本になる大人なのかと自分自身に問いかける日々です。子ども達と直接関わる職員の方々はさらに深く様々なことを悩まれているのだと思います。船形学園では様々な職種の方が参加できる研修も含めて、専門的な知識を学ぶ機会がたくさんあります。子ども達の成長を支える職員として働いていくためにも、そのような場を活用し常に自己研鑽をしていかなければと思います。

また、子ども達の成長にはたくさん大人の子ども達を見守り、それぞれの立場で関わっていくことが不可欠です。船形学園のことをよく理解していただいている地域の方々との交流

は、子ども達にとってとても良い影響になっていると感じます。地域全体で子ども達を育てていこうという温かい雰囲気の中

沢山の思い出

◆親子写生大会

7月2日(日)にアロハガーデン館山を会場に、館山市青少年相談員連絡協議会主催の親子写生大会が開催され、5名の児童が職員と一緒に参加しました。その中で、Rくん(小4)の作品が青少年相談員会長賞に選ばれました。Rくんおめでとう！

◆江戸っ子杯ドッジボール大会

7月24日(月)江戸っ子杯ドッジボール大会に参加しました。結果は4位。「先生、メダルもらったよ！」と応援に行けなかった職員に報告してくれました。おめでとう！

中で生活できることは大きな魅力です。私も子ども達を支えることができる大人の一人となっていきたいです。

◆船形地区祭礼

7月29日(土)30日(日)は、船形地区合同祭礼でした。本園の児童と職員は堂の下地区、グループホームの児童と職員は根岸地区で参加しました。2日間とも暑かったですが、楽しく過ごすことができました。

◆合同水泳

8月3日(木)に小学生以下の児童全員と職員で近くの西の浜海水浴場に行きました。初めての海にびっくりしたり、高学年の児童は、ちよつと深いところまで行ってみたりしました。砂浜では、スイカ割りもしました。海水浴場で食べるスイカは格別でした。

◆運動会

9月9日(土)に中学校の運

動会がありました。応援合戦にリレー、各競技どれをとっても一生懸命、真剣な眼差しで取り組んでいました。とても熱気溢れる運動会で普段の生活とは違った子ども達の姿をみる事ができました。

10月7日(土)にはこども園の運動会がありました。リレーや応援合戦の他、可愛いダンスを披露してくれました。衣装もとてもすてきでした。

◆ 館山市小学校陸上大会

10月4日(水)に館山市小学校陸上競技大会が行われました。学園から多くの児童が船形小学校の代表として出場しました。市内10校の代表児童が100m走やリレー、走り幅跳びなどで競い合い、N君は走り高飛びの部で2位になりました。Nくん、おめでとう！

◆ 館山市文化祭学芸展

10月21日(土)・22日(日)に館山市文化祭学芸展が開催されました。授業などで制作した

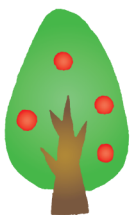
作品が館山市内の小・中学校から出品されました。学園の児童が制作した作品もいくつか出品されていました。どれも素晴らしいかったです。

◆ 七五三

11月12日(日)に、七五三のお祝いをしました。今年は、女児2名と男児1名の計3名。お化粧をし、着物を着てちよっとおすまし。これからも、元気に成長して欲しいです。

◆ 小学校・こども園マラソン大会

12月6日(水)に小学校とこども園のマラソン大会がありました。11月の中旬から練習が始まり「今年は優勝する！」などと目標を立てて練習に励んできました。もちろん、マラソンが苦手な嫌々参加している児童もいましたが、全員走りきることができました。

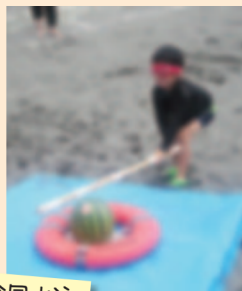


沢山の思い出

館山市小学校陸上大会



合同水泳



親子写生大会



館山市文化祭学芸展



七五三



運動会



江戸っ子杯ドッジボール大会



船形地区祭礼



手作りおやつに挑戦中

栄養士 真田奈都子

去年度より月に1度、調理場から手作りおやつを出すようになりました。

限られた器具や時間の中で何が出来たのか、季節感のあるおやつを出したい。そう考えながら調理場の職員と相談して計画を立てました。今年度は左の表の様に実施中です。

時には、もっと甘さを控えた方がよいかどうかや、もっと

ふっくら作るにはどうするかなど、子ども達の好みになるように試作しています。

手作りおやつは、子ども達に好評の様で「作る回数を増やしてほしい」「もっと量を食べたい」等の声も聞こえてきます。作るのは大変ですが、子ども達の「美味しい」のひとことが聞きたくて、調理場の職員と共に頑張っています。

メニュー

- 4月 チーズケーキ
- 5月 抹茶ミルク寒天（八十八夜）
- 6月 フルーツパウンドケーキ
- 7月 セタゼリー（セタ）
- 8月 レアチーズケーキ
- 9月 お芋とレーズンの蒸しパン
- 10月 アップルパイ
- 11月 スイートポテト
- 12月 ラスク
- 1月 おしるこ（鏡開き）
- 2月 チョコのパウンドケーキ（バレンタインデー）
- 3月 ドーナッツ

ボランティヤさん 大募集!!

あなたの趣味や特技を生かしてみませんか。

船形学園では、学習指導してくださる方、子ども達と一緒に遊んでくださる方、行事のお手伝いをしてくださる方等の各種ボランティアを募集しています。

お問い合わせ・お申し込みは、

船形学園 養護係 中河まで
☎0470・27・2921



編集後記

師走に入り、いよいよ慌ただしく毎日が過ぎていく季節となりました。皆様お変わりなくお過ごしですか。地域、関係機関、保護者の皆様には、いつもご理解とご協力を頂き誠にありがとうございます。

さて、船形学園では、4月に新しいスタートを切った児童・職員が多数いました。新しいことへの期待に胸を膨らませながらも、不安と戸惑いの表情が目立っていた4月に比べ、今では、素敵な笑顔が沢山見られるようになりました。

これからも、学園の様々な様子を皆様にお伝えしていければと思います。

この号に関するお問い合わせは、船形学園広報担当者までお願い致します。

第49号編集長 武田 昂

学園だより 「さざなみ」第49号

発行年月日 平成29年12月15日発行
編集・発行 東京都船形学園
千葉県館山市船形1377番地
電話 0470-27-2921～2
E-mail: funakatayougo@funagaku.org
印刷 株式会社コア
千葉県館山市北条700-2
電話 0470-23-7541